

刊夕 日九月八

常磐每日新聞

定価 一月五拾五銭 郵費五銭
 廣告料 五號十二字 一行五拾五銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

日本精神と神社 (五)

石城郡神社總代人大會席上演筆記

國學院大學教授 河野省

なぜ日本人が薩張りして清々しいのを好むかと申しますと、これは水蒸氣の多い關係もありませうが、又自然の風景の好い所が多いと云ふことも大きな原因であります。山は翠に、川の流は清く、最も多く清々しい風景に富んで居るのであります。兎に角日本人は薩張りした事が好きであります。此の薩張りした氣持があれはこそ、皆さんと共に尊い天皇陛下を仰ぎ、こう云ふ立派な國体の中に、何時までも、自由に住まうて居ることが出来るのであります。我が國民は常に清新の氣分を持つて居る。之は我が皇室の清々しさの然らしめる所で、歴代の天皇陛下の薩張りした清々しくましますことの然らしめる所でもあります。皆さん京都の御所は何と云ふ清々しいこととでありませう、天皇陛下の御日常を陰ながら承けたまわつて見ましても何といふ薩張りしたことでありませう。此の薩張りした氣持と云ふことは皆さん御自身によくお分りであらうと思ひ

ます。これが日本心の第三の特色であります。日本心の特色は色々ありますが、この神々しい氣持と懐かしい氣持と清々しい氣持、これが正に日本心の三大特色であると思ひます。朝日に映つた山櫻の花は神々しく上品であります。さうして又懐かしい。誠に山櫻の花は色合と云ひ、あの葉の出かたと云ひ誠に懐かしい。さうして又あの姿は薩張りして居る。惡どい所が少しもない、それだから宣長翁は朝日に匂ふ山櫻に譬へたのである、私はあの歌は思想的に見て正に千古の絶唱であると思ひます。皆さん、以上私の申上りましたのは疑ひもなく日本心の根本的な特色だと思ひます。たゞさう思ふだけでなく、今其の證據を一つ擧げてみたいと思ひます。

皆さん、なぜ日本人はこゝろ丸の旗を國旗と定めたのでありませうか、私はこの旗は正に世界で一番神々しいと思ひます。獨り日本人のみならず、荷くも太陽系統の生物は是れが

一番神々しいと云ふに違ひない。さうして又このお太陽様ほど懐かしいものはありませぬ。お太陽様が厭になつたり、お太陽様が嫌ひなつたら、もう我々はお終ひです、お太陽様を懐かしく思はないと云ふ人があつたならば、夫れは精神に異常を呈して居る。人間殊に日本人にとつてはお太陽様が何より懐かしい、有らぬ人類が之れを懐かしまぬものはない。それから又此の國旗は如何にも薩張りしてゐる。こんな清々しい旗は世界中にありませぬ。此のお太陽様を日本は國旗にして居る若し此の紅い日の丸を取つて眞白にしてしまつたら何うか。夫れでは餘りにツツパリ過ぎて淋しくなつてしまふ。それならばと云つて之を皆眞赤にしてたら餘りにしつツこい。然るに此の白地に赤く日の丸を染めぬいた所に實に何とも云へぬ妙味がある。

常磐の藝

忘勿草 S・K
 我れは 河原の 忘勿草
 赤く 咲こうとして 青く咲いた 戀の花です

平新川町十九
木村病院
 電話一六四番
 産婦人科
 院長 木村寅次郎
 婦人科
 内臓外科
 泌尿器科
 整形外科
 醫學士 内木宗八

御位牌と
 佛壇佛具
 平町新川町
 橋本屋佛具店
 電話一六三番

高久病院
 院長 醫學士 高久忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽清
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
 平町田町 電話五二三番
 内科小兒科
 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科
 レントゲン科

毎度御ひいき
 有難ふ御座ります
 うなぎの御用命は
うなぎ奴
 平町田町(電話二三番)
 ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

御料鹽豚
 田町 三二二三屋
 電話三二三番

中村齒科醫院
 平町鍛冶町七
 亡父勝二儀本年新益に相當仕候も故人の遺志に依り提灯の御贈與辭退仕度此段御諒承願上候
 内郷村新町(公園下)
 鹽坂 幸子
 電話一九二番

亡息茂儀新益の處時節柄御供物一切御遠慮申上候
 舊七月
森本盛一

亡喜代子儀新益に相當り候處時節柄佛前供品一切御辭退可申上候付不惡御了承相成度候 敬白
 新田町
 清野音吉
吉田眼科病院
 平紺屋町、電話六八番

石山博士留任

理事會で決定

磐城共済病院に於ける共済會長賀澤忠治氏が獨斷にて勝手に院長を更迭せんとし、端なくも物議を醸すに至つた旨は昨報の如くであるが、同問題に關し昨日理事會を開いた結果同病院患者の診療に奔命を惜まざる院長石山博士は其の手腕力量に於いて得難き人物であると爲し、留任を希望する事に一致し、專斷にて更迭を企てた賀澤會長の處置を安當ならざると決定、近く會員に此の旨を通報する事となつたと

水蜜桃 石城郡平窪、大野、赤井、平町の好間、内郷の各村から産出する水蜜桃は、出廻る

は、平町の果物店に

出初めたが本年の天候は果樹類に適せず郡下の産額は六万貫位と豫想され、平年より一二割減を見込まれて居るが現在平市内の相場は一貫日三十銭を前後して品不足を告げながらも相場は平年より安いと

上水道竣工

祝賀式打合

けふ委員会

平町役場では本日午後一時より會議室に於て去月末を以て終了の水道擴張工事竣工式期日の決定及び關係労働者の退職手當金支給其他に就いて水道委員を招集委員會を開會した

青年團對抗

陸上競技申込

本日迄三ヶ所

既報来る二十一日午前八時より磐中グラウンドに於て開催される石城郡下各青年團對抗陸上競技會の申込は十日

内郷豫選

對抗競技選手

既報石城郡内郷村青年團にては昨日午前九時より高坂グラウンドに於て来る二十一日の郡下各青年團對抗の陸上競技會に出場する選手の豫選を行つたが参加人員五十名の内左の如く決定した(百米)瀧口今朝吉(四百米)大谷岸雄(千五百米)小貫新一 寒河江武雄

個人優勝者授賞

体育大會の

磐中選手へ

磐城中等學校の縣下中等學校體育大會陸上競技個人優勝者は左記の如く本日賞状が到達したので、九月一日之が傳達式を行ひ各々授賞すると

- 五千米 三等 鈴木五平
- 四千米 三等 藁谷正記
- 棒高跳 三等 白土丑之輔
- 八百米 一等 箱崎遠平
- 二百米 一等 金成令宣

共済病院の

使命と目的

A B C 投

- 一、病院は建造物や組織にあらずして病院の院長並に醫務に従事するもの全體の手腕力量及び信用に依つて聲價は揚がる
- 二、殊に病院の信用は院長の手腕と信用如何に依るものであつて理事とか會長とかは外部に對して何等意味なきもの

平の温度

平裁判所	八六、〇
平刑務所	八一、〇
平役場	八二、五
土木監督所	八二、〇
平警察署	八一、五
團體事務所	八一、〇
平稅務署	八二、〇
平郵便局	八六、〇
平驛	八五、〇
本營林署	八一、〇

に至り信用頼に堪り世の信頼を増加する事益々多からむとして來た

七、凡らく其等の信用と好評と聲價とは石山博士の献身努力と手腕力量に俟つもの甚だ大なるは勿論である

八、實に石山博士は自己の使命に對しては最善の努力と最後のベストをなす人である、而して衆を牽ゆる爲に自ら一般醫務と等しく夜勤、宿直をなし若し重病人のある場合には徹夜して看護醫務に従事すると承知して居る故に病院内部は心から院長の爲に協力一致して懸命の努力をなすつゝあるのである

斯の如きは一に博士の崇高なる人格の反影にて殊に病院のため敬賀すべき極みである

九、然るに今突如として病院長を變更する理由は何處にありや

十、此等は當初共済病院を建設した多くの人々の意志であるや否や

十一、又病院經營の意志は一般共済會員一同の意志でなければならぬ而して一般共済會員一同古今未曾有の名院長として滿腹の信任を博士に與へて居るのである、かゝるが故に或は會長の意志と一致せぬ事が偶々あるかも知れぬ、然れども病院の爲め地方公共の爲めなら假令會長と意見の衝突があつてもし方があるまゝ、

要は地方民衆の爲めで其れが取りも直さず一般共済會員の意志である、然るに些々たる感情の素隔の爲めに弊履の如く臆首する如き加澤氏の爲めに甚だ惜むべきである

十二、そんな事に賢明なる他の理事諸君の認容する處となるや否や

十三、要するに病院は信頼する院長に内外相呼應して應援して有終の美をなさなければならぬと思ふ從來共済病院過去の歴史には頗る遺憾な事が多々ありしやに聞て居るが其れ等の情弊が徐々に石山博士に依りて歩一歩改善せらるゝ時に當り今度の博士進出し問題は誠に遺憾である

故高岡唯一郎
故伊藤芳吉
故山崎忠治

右本年新益に相當り候處時節柄提灯その他供物一切御辭退申上度此段謹告仕候

八月九日

山崎吉平
伊藤淺之助
高岡文夫

CAFE SEKAI

カキの音界

紅、そして青の灯の下に
美女のくむ緑酒を知り御身よ
さらば來り召せ
吾が世界のハレムへ。

美しのオアシス世界の麗女は
いと久しく御身の來るを
心して待てり……

電話七〇七番

が道鐵

バスに敗けた

避暑客當て込みで
臨時を増發しても

依然赤字難

支拂督促

平區受理件數

海水浴を當て込んで臨時列車迄増發した平驛に於ける七月中の乗降客數は乗車四万八千八百八十人、降車三万九千八百九十三人でこの収入額一万七千九百五十五圓七十五錢となつたが前年同期に比較すると乗車が四千二百三十一人、降車五千八百八十八名、収入千四百餘圓減に赤字を埋めんと手ぐすね引いて待つた海水浴期にさへ此の仕未で自動車との運輸戦に一敗地に塗れた觀がある

平區裁判所に於ける今年一月より去月未迄の支拂督促の受理件數は一千二百二十一件にて此内異議の申立をなしたるもの二百十六件あり昨年同様に比し受理件數に於て百餘件の減を示して居るのに反し異議申立は八十八件の増加を來して居ると

度量衡の検査

廿五日から開始

石城郡下に於ける度量衡器及び計量器の第一種取締検査は平、四倉、湯本、小名濱、江名、の各役場で左記日割にて行ふ事になつた

- (四倉)八月廿五、廿六日
- (平)八月廿七、廿八日
- (湯本)九月一、二日
- (小名濱)九月三、四日
- (江名)九月五、六日

警中双葉へ遠征

警城中學校野球部にては本日午前九時より双葉中學校グラウンドに於て行れる濱三

勞銀

平の調査

平町役場で此程調査せる大正八年、昭和元年、並に本年の三ヶ年に於いての市内各種勞銀統計を見ると大正八年の大戦當時頃は左官が

一日三圓、一工が二圓八十錢、の手間賃であつたのが本年はいづれも一圓と云ふ慘落振りでもしも働さ口がない有様には係員も驚かされて居る、賃金左の如くである、
大正八 昭元 本年
農業 一五〇 二〇〇 七〇
日雇 一五〇 二〇〇 七〇
大工 一六〇 一八〇 一〇〇
左官 三〇〇 三〇〇 一〇〇

職業戦線へ

けふの門出

大望を抱いて

児童希望

既報平職業紹介所連絡小學校の就職希望児童三十六名に對する職業實習は愈々本日より一週間行ふ事となり各々希望の向に依つて平、内郷、湯本等の鐵工場見習に十名を當てはめ其外呉服店菓子工場指物屋下駄屋等にそれ／＼實習せしむる事になつたが實習後生徒の感想と委託者の實習生に對する感想を取つて參考資料とする事になつたと

六日午後五時四十分頃炭車八臺を馬に引かせ同村大字上湯長谷宇力九十五番地先運炭線路を進行中岡崎清司(三)を轢倒し左右兩下腿を轢斷、是れが因で死亡した

日本刀を

匿して持つ

物騒な青年

無賃乗車で發覺

石城郡入遠野村大字入遠野字中野鈴木光雄(三)は本月五日日本刀二振を持つて無断家出したが六日郡山驛より磐越西線安子ヶ島驛迄の切符で若松迄無賃乗車したのを係員に發見若松署に突き出された處無届で日本刀を持ち歩いて居た爲め目下

幼兒を

過失致死

罰金五十圓に

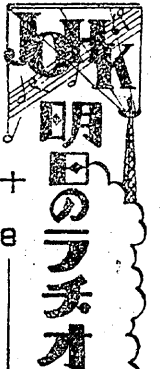
石城郡内郷村大字白水字川平六十七番地炭礦運搬夫遠藤憲治(一)は本年五月二十

泥酔して

暴れ廻る

平署へ檢束

平町梅香町五〇居住清田永



今晚は北東の風、晴れたり曇つたり、明日は南東の風、晴れたり曇つたり、曇つたり

後九三〇 全國ニュース
氣象通報 番組豫報
明日の部
前九、一〇 料理献立「根芋の胡麻酢」中會根うめ子
前一一、三〇 家庭講座「お米の話」佐々木信藏
後一〇、〇〇 オリムピック大會狀況 米國NBCロサンゼルス放送局より中繼
後一一、二〇 運動競技「全日本都市對抗野球大會狀況」明治神宮外苑球場より中繼

今晚の部
後六、〇〇 子供の時間 少年運動講座「水泳の手ほどき」(一)京田武男 後七、三〇 講演「日本に於ては國民大衆諸君に告ぐ」滿洲國總務長官駒井徳三 後八、〇〇 浪花節「怪男

後六、〇〇 子供の時間 少年運動講座「水泳の手ほどき」京田武男 後六、三〇 山と海の講座「日本アルプス」八木貞助 後七、三〇 趣味講演「捕鯨の話」志野徳助 後八、〇〇 管絃樂「これが音楽といふもの外」コロナオーケストラ、指揮 佐藤清吉 後八、三〇 常磐津 淨瑠璃常磐津和佐大夫外 後九、〇〇 連續漫談「珍釋西遊記」終 孫悟空の第三報告 古川綠波 伴 奏指揮福田宗吉

窃盜犯公判

次回は十一月

石城郡赤井村大字高萩目下住居不定無職佐藤正記(三)が本年六月中旬より七月二十四日迄の間磐崎村大字長孫字三反田箱崎權之丞外八名方へ忍び入り衣類其他雜品五十九点此價格二百十四圓餘を窃取したる窃盜事件の公判は本日午前十一時より平區裁判所に於て竹内判事係り市川檢事立會の下に開廷事實訊問を爲し拘留されたが次回公判期日は来る十一月九日午前九時である

時計眼鏡

ト キ ワ ヤ
ト キ ワ ヤ
平一電三三九

- 平職業紹介所報告
- 回求人部
- △出前持 二十才以下 尋卒 月五圓(平町某)
- △工場監督 三十才以上 高卒 月廿七圓(江名某鐵工場)
- △賣子 三十才以下 尋卒 賣上の二割給(江名町某)
- 回求職の部
- △魚店員 十四才 尋卒 給料面談(平町某)
- △店員 十九才 中三半途 給料面談(郡馬縣某)
- △配達 三十三才 高卒 給料面談(平町某)
- △自動車助手 十九才 高卒 給料面談(神谷村某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 藤 紫 雲 畫

第二百二十二席 眞庭念流の達人櫻井五助

東勝寺へ引揚げ

山毛谷戸の源太郎を始め

其他の者は足立屋の女房に

「おやまさんの事は頼むぜ」

と云ひ置き林藏の首を槍に

刺してそれを擔いで峰吉が先

に立ち總同勢十九人上尾の

宿を出た、此時にはもう東

が白んで居ります、曉の霜

を踏んで久森の東勝寺を指

して行く、早くもこれが宿

中に知れたと見えてワツと

云ふ人聲、ソレ林藏どんが

殺された今首を持つて行く

あれへ行つたと大勢出て之

を見る、宿は大騒ぎ林藏が

足立屋で殺されたとは知ら

ぬ子分の藤藏に伊勢の臺屋

の琴次の子分衆藏に仙太郎

の三人は山城屋に遊んで居

て鴻巣に喧嘩の仲裁に行つ

た林藏の歸りを待つてゐた

まさかにおやまが呼出しを

かけて高萩身内に殺させる

やうな手配になつてゐると

は夢にも知らない、其内に

夜が明けると表に大層な人

聲、それを耳にした藤藏が

藤「何んだ〜大層騒擾し

いどうした」

と聞いた時に二階へ駆け

上つて来た若い衆が

若「大變でございます親分

が足立屋で高萩の子分に

「さうい

二人「承知しました、林藏

親分が首になつたと知りな

がら此儘故郷には歸れぬえ

死なば諸共親分の敵の高萩

身内を一人でも二人でも佛

にして心持よく往生しませ

う、さア支度が宜けりやア

出懸けやせう」

と先に立つた、二人が梯

子を駆け下り預けて置いた

脇差を取り臺所へ来て柄

杓に水を掬ひその柄へサツ

とかけた。これは

手の江らぬ爲め

それから藁

を取つて

いて行け

云はれて源太郎が振向い

たが

源「オウ赤尾の若い者かよ

くこれまで出て来た親分の

供をしろ」

藤「喧しいや、供をする共

一人だやア行かねえ、荷物

にためえ達を伴れて行くか

ら然う思へ」

ズラリと引抜いた長脇差

三人揃つて斬り込んだ、此

方は大勢此者共を中に取込

んで四方より斬つてかゝる

藤藏に仙太郎、衆藏の三人

は必死になつて斬り合ひま

したが、多勢に無勢、見る

／＼内に斬り伏せられた。

然し高萩方にも大分怪俄人

が出来た様子、博徒とは云

ひながら茲らは感心なもの

でございます

源「もう宜い〜、止めを

刺すほどの事はあるめえ、

其儘にして引揚げろ」

と是から久森の東勝寺に

参りました。イヤ此寺の和

尚が驚いた事、血の着いた

林藏の首を持つて廿人ばか

りゾロ〜本堂へ入つて来

た。先に立つた源太郎が

源「親分の墓へ参詣致しま

す、線香と花をお貰ひ申し

ます、又此首は供物の代り

に墓に供へます」

和「左様で、御奇特な事で

ございます無常迅速南無阿

彌陀佛々々々々々々々々々

寺男が花と線香を持つて

先に立つ、門峰吉が劔釣瓶

の水を汲んで首をきれいに

洗ひ、桶を提げて墓に來た

其内に源太郎が墓の掃除を

して花を挿し線香をそれへ



てこの前を

高萩のお身内衆が下を指し

て引揚げて行きます」

藤「さうか親分にも似合ぬ

間抜けな死方をしたものだ

こいつはおやまの手引に違

えねえ、さア伊勢の客人、

今聞く通りな始末かどうか

俺と一緒に死んでおさんな

立て峰吉の持つて来た首を
供へ一同それへズラリと坐
し
源「親分へ申し上げます、
林藏は首に致しましてござ
います、どうぞこれで成佛
しておくんないさいまし、南
無阿彌陀佛々々々々々々々々々
一同ホロ〜と涙を流し
た。参詣終つた後に源太郎
が
源「さア是から少し相談し
てえ事がある、此處では云
へねえ本堂まで来てくれ」
と一同を伴れて本堂に來

御用命 印刷物の總代理
常磐毎日印刷株式會社
電話 三六〇番

外科。婦人科
井坂醫院
平町 田町
電話 五五九番

難波醫院
平町新川町
電話 五〇二番

クラクラフ
蠅蚊・南京虫・油虫・羽虫・蚤・虱退治に
ほんの少しで一たまりもなく死ぬ
平町新川町(電一七二)
代理店長 松崎商店 大室屋

度量衡、計量器、吸入
用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話 四〇番

御新佛御供養の
御法名入提灯の大奉仕
瓜形 一對房付 金一圓五十錢より
角形 同 金一圓九十錢より
其他岐阜提灯種々取揃へてあります
是非御下命は電話九五番
平四丁目
スガノヤ提灯店